

小P連だより

第37号

平成19年3月14日
発行
八王子市立小学校
PTA連合会

こんな学校に通わせたい!

三鷹市立第四小学校に

行ってきたい!

「こんな学校があつたらいいなあ。こんな学校だつたら子どもたちが喜んで通ってくる。そして未来への夢を大きく育て輝くだろうなあ。」

そんな学校を目指して実践している小学校があると聞いて、私たち(第4ブロック)は、三鷹市立第四小学校に行ってきました。

三鷹四小ってどんな学校なの?
ぜひ読んでみてください。

『先生がいっぱい!』

三鷹市立第四小学校には、毎日たくさん大人の大人たちがやっています。なぜだと思いませんか?

それは、学校を支援しているボランティアの方々がみんな積極的に活動を行っているからです。

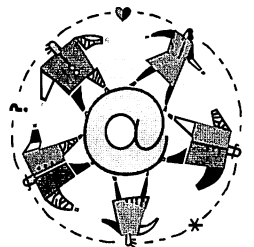
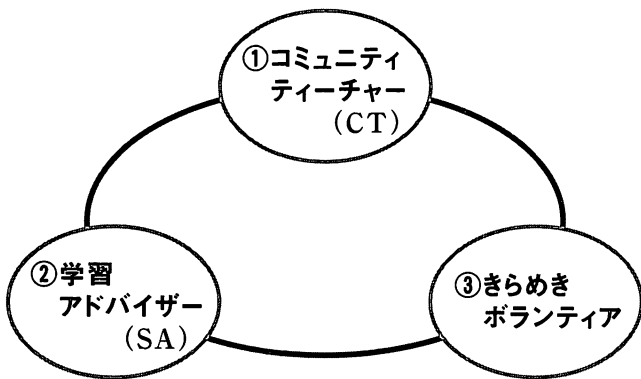
参加しているのは保護者や地域の方々。学生から高齢者までがそれぞれの特技を生かして、子どもたちに指導・支援を行っています。

『夢育支援ネットワーク』

平成十四年十二月から自立的な活動組織の継続性などを目指しNPO法人として「夢育支援ネットワーク」が立ち上がりました。

教育ボランティアの方々の自立組織である「夢育支援ネットワーク」はそのシステムを確立させ図のような形で支援ボランティアとの連携を図りながら活動しています。

夢育支援ネットワーク



①コミュニティティーチャー (CT)

「専門的な知識や技術を生かし教員と協力して授業を行う。主に総合的な学習の時間に活躍するボランティア。」

・総合的な学習「僕らぐんぐんピナッツマン」



でピーナッツ作りをする際に、市内の落花生農家の方にCTとして協力していただき、子どもたちに指導してもらいました。

②学習アドバイザー (SA)

「さまざまな授業、学校行事等の教育活動の指導補助として活躍するボランティア。」

・ミシンのトラブルはSAにおまかせ!
家庭科の授業でミシンをかける段階でSAのお母さん方に指導に加わってもらいました。

③きらめきボランティア

「家庭や地域の方々々が趣味や特技を生かして指導する課外の選択クラブ活動。きらめきクラブ」

・点字や韓国語、合唱など子どもたちが好きなクラブを選んで参加。
教育ボランティアの方々先生になつて楽しく活動しています。

★こんな質問してみました

夢育支援ネットワークに

携わっていた先生に

Q. 教員免許のない保護者がSAとして授業に参加して抵抗はなかったか。

A. 最初は抵抗がありました。けれど子どもたちに細かい指導ができること、子どもたちが嬉しそうに顔をしているのを見て、受け入れられるようになりました。

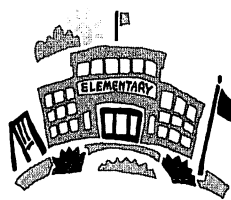
三鷹市立第四小学校に行ってみて

教務主任で図工の山木先生からお話をさせていただきました。

正直言って驚くことばかり。お話を

をお聞きして、
けばいくほど、
我が子もこんな
学校に通わせたい
と思いました。

学校の中には
大人の方がいっぱい
で、職員室
とスタッフルームが
つながっていて、
よりよい授業が
できるように協力
合っているんだなあ。
と感心しました。



地域・家庭・学校がお互いに協力することで自分たちも成長し、子どもがキラキラと輝いてくれるのならこんな幸福なことはありません。

このような「コミュニティスクール」ができるまでには数々の苦難があつたとは思いますが、私たちもひとりの保護者として参考にできる小さいことからでも学校に関わり地域の人とも協力していけたらいいと思います。

校長先生のお言葉（文中より）

「学校が十やらなければならぬうちの二、三を手伝って欲しいと言っているではありません。学校は十やることは十やります。そのうえにボランティアの方に二、三のお力添えをいただくことで十二、十三の力で子どもたちの夢を育みたいのです。皆さんも教育の当事者です。」この言葉が私の心に大きく響きました。

三鷹市立第四小学校の校長先生、副校長先生、教務主任の山木先生、あたたかく迎えていただき本当にありがとうございます。

参考文献・資料

- ・三鷹第四小学校
- ・平成十八年度学校要覧
- ・「子ども・学校・地域をつなぐコミュニティスクール」～「人間力」を育む三鷹四小の学校づくり～

著／奥村俊子 貝ノ瀬滋



防犯パトロールと防犯教育

立正大学教授 小宮信夫

効果的な防犯パトロールや防犯教育を行うためには、まず、人から場所へという発想の転換が必要です。これまでは防犯パトロールでは不審者を探し、防犯教育では不審者に注意するよう指導してきましたが、不審者は見ただけでは分かりません。子どもに聞くと、サングラスをしている人、マスクをしている人、という答えが返ってくるだけです。

このように、危ない人は見ただけでは分かりませんが、危ない場所は見ただけで分かります。犯罪のほとんどは、二つの基準が満たされた場所で起きていくからです。その一つは「入りやすい場所」であり、もう一つは「見えにくい場所」です。だれもが「入りやすい場所」では、犯罪者も怪しまれずターゲットに近づけて、犯行後に逃げやすいから、犯罪は起こりやすくなります。また、周りから「見えにくい場所」も、犯罪者はひそかに隠れることができ、犯行が発見されにくいから、犯罪が起こりやすい場所です。

例えば、どこからでも入れる公園は「入りやすい場所」であり、植物で遊具が見えない公園は「見えにくい場所」です。ガードレールがない道路は車を盗む犯罪者からすれば「入りやすい場所」であり、街灯が少ない道路は「見えにくい場所」です。

また、落書き、散乱ゴミ、放置自転車などが多いと、そこは、犯罪者にとって、心理的に「入りやすく見えにくい場所」になります。管理が行き届いてなく、無関心がはびこる状況は、犯罪者に警戒心を抱かせることができず、気軽に立ち入ることができ「入りやすい場所」になるからです。また、無関心な人が多く、顔の見える関係がない「見えにくい場所」とも思われ、「犯罪を實行しても見つからないだろう」「見つかっても通報されないだろう」と思わせてしまうからです。

このように、人ではなく、場所に注目することが出発点です。子どもには、犯罪が起こりやすい場所には行かないこと、やむを得ず行く場合にはすきをみせないことを教え込む必要があります。子どもは注意することしかできませんが、大人であれば、危険な場所を安全な場所に変えていくことができます。自分たちで直せる場所は直す。自分たちで直せない場所は行政に依頼する。そういう活動に結び付けていくことが、正しい防犯パトロールのやり方です。



安全対策の取り組み

散田小学校

「クラスリレー・パトロール」

散田小 PTA では、平成十三年に起きた「大阪池田小児童殺傷事件」を機に、児童の登校時間に通学路に立つ「朝の通学路安全指導」を行ってまいりましたが、平成十七年以降、市内でも不審者情報が相次ぎ、下校時を含めた新たな安全対策について検討した結果、平成十八年六月より「クラスリレー・パトロール」を実施することになりました。

★クラスリレーとは？★

一週間ずつ、クラスごとに順番にパトロールするというものです。

《担当期間》

土日を含めた一週間に一日以上
☆一週間前に、担当のクラスにお知らせを配布

《時間帯》

登校時、下校時、夕方、夜間、
土日であれば、日中など

《活動の条件》

全世帯に配布している、散田小 PTA の黄色い「腕章」をしてパトロールするよう。

「クラスリレー・パトロール」の特徴は、通勤の駅までの行き帰り、買い物や犬の散歩等、日常の外出時に、それぞれの都合に合わせて無理なく活動できることです。

また、活動後には、報告書の提出をお願いしており、寄せられた情報を定期的に各家庭に提供しています。情報を共有し活用することで、子どもたちを危険から守り、防犯に役立たいと考えています。

この活動も早いもので、実施から九ヶ月が過ぎ、報告書の集計では、毎月延べ百名以上の保護者が活動しています。

報告書の中には、「一週間の活動期間のうち、毎日パトロールをした」「自分の担当の週が過ぎてても、なるべく腕章をして歩きたい」など心強い声もありました。

活動を通じ、安全に対する関心や意識が高まり、保護者による「子ども達を見守る眼」が増えていることは、意義があると感じています。

今後も一人でも多くの保護者が参加しやすい活動を目指し、更に検討を重ねてまいります。



東浅川小学校

「東浅川小S・G・T（セーフティ・ガーディアン・チーム）スタート」

昨年十二月より、全保護者を対象とした新しい保安活動「東浅川小S・G・T（セーフティ・ガーディアン・チーム）子どもを守る親の会」が始まりました。「私たち親の手で子どもたちが少しでも安心してできる環境作りをする」を目的とし、登下校と夕方（放課後）の時間帯に合わせ、黄色の腕章を着用して見守り活動やパトロール活動を行っています。全保護者が参加できるように、当番期間に幅をもたせ、その中で各自の都合に合わせて活動できるようにしています。また必ず活動報告書を提出し、危険箇所の報告等を行っています。

校外委員会では報告された情報を元に「東浅川小S・G・T便り」を発行し、情報の共有化に取り組んでいます。皆が参加し、運営しやすい体制をモットーに発足しましたが、「学校との連携」や「より迅速な情報の伝達」また「児童数のばらつきによる活動地域の偏りの是正」等、これからも改善すべき点もまだまだあるように思います。

東浅川小地域ではこれまでも、安全ボランティア（緑の腕章）地域の老人会の皆さんが、自主的に子どもたちの見守り活動を行っていました。今回、自分たちで活動してみても、

保安活動の重要性や継続することの大切さを実感しています。改めて皆様のご協力に感謝いたします。これからも、安全ボランティアや地域の方々と協力し「子どもたちを守る」という気持ちを大切に、肩の力を抜いて長く活動していきたいと思えます。

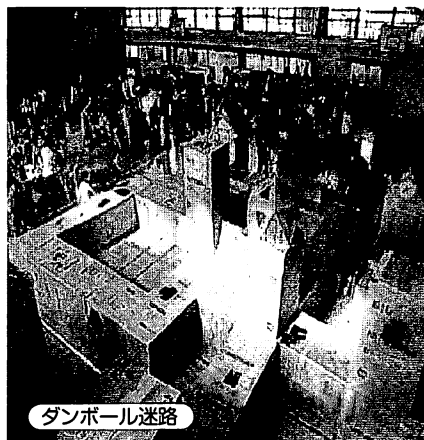
こんな活動もしています

横山第二小学校

「横二小あそびの広場」

本校のPTA活動のひとつに「横二小あそびの広場」があります。地域・学校・PTAが協力し、平成七年度から毎年十月の第四土曜日に行われ今年で十二回になります。あそびの広場委員会を中心としたスタッフの準備やお手伝いをし、総勢四百余名もの参加となり、地域の方々にはその技を披露して頂きました。

竹馬、けん玉、ベীগマ、お手玉等の昔遊びや、リース、ビーズブレスレット等の手作りコーナー、毎年恒例のダンボール迷路は、いつも長い行列ができるほどの人気です。どのコーナーも大勢で賑わいました。何回転んでも乗れるまで竹馬を頑張る子、友達と楽しくおしゃべりしながら自分なりの作品を作り上げる子、



ダンボール迷路

起震車では、地震の怖さを体験できました。午前中の三時間が、あっという間に過ぎてしまいました。ご協力いただいた地域の方々、先生・保護者、主役の子どもたち、全員が一体となり交流を深め、楽しく過ごせた一日でした。

「三校交流会」

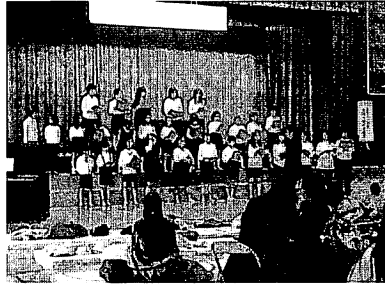
長房小学校・船田小学校

長房地区にある長房中・長房小・船田小の三校では、三校PTA連絡協議会を年三回開催し、情報交換を行っています。

そして年に一回地域ぐるみでの交流を目的とした活動として、地域の方々、青少年対策委員会と協力し、スポーツ大会や音楽会を行ってきています。昨年度、長房地区が青少年対推進地区に指定されたことから、意見発表もとりいれました。

今年度は平成十八年十一月二十三日、船田小学校を会場とし三校交流会を開催しました。第一部「子ども意見発表会」では、各校より二名の代表が『移動教室で学んだこと』、『今、感じ考えていること』など、自分の考えをまとめ発表しました。第二部「音楽会」では、音楽科の先生のご指導のもと、保護者を交えた有志による合唱、吹奏楽部の演奏、そして元長房小音楽科教諭であった倉橋孝氏によるピアノ演奏や会場一体になったの歌などで、とても盛り上がりました。最後は全員で「夕やけ小やけ」を歌い閉会。子どもたちの素直な意見を知り、素敵な音楽に触れることができました。

この三校交流会は、毎回人と人との繋がりの大切さを感じる素晴らしい会となっています。



教育長との懇談会

去る十一月二十八日市役所会議室において、各単P役員代表者と教育長及び市教委の方々が出席して、行政との懇談会が開催されました。

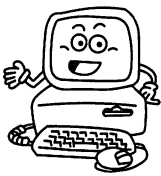
今回は八王子市の教育問題の中で「耐震工事、部分改築工事、改築工事後の学校施設の保守及び定期点検について」「放課後教室について」「個に応じた学習指導の充実及び教育の意識改革と資質・能力の向上について」の三つのテーマを中心に意見交換を行いました。

限られた時間の中での意見交換でまだまだ話し足りないところはあつたかと思いますが、教育問題のような大きい話題について単Pだけで話をする機会はなかなかありません。

石橋小P連会長も石川教育長も挨拶の中で、今後こういった懇談会の回数を増やしていきたいと話されていましたので、小P連として貴重な機会を大いに活用し、議論を深めて行けることを願っています。

尚、議事録が小P連HPにアップされていますので、是非ご覧になって下さい。

<http://www.8beat.info/shou-p-ren/>



小P連スポーツ大会報

※ソフトボール (八月二十七日)

- ☆優勝 恩方第一小学校
- ☆準優勝 第五小学校
- ☆第三位 第二小学校

※バドミントン (九月十日)

- ☆優勝 陶鎔小学校
- ☆準優勝 横山第一小学校
- ☆第三位 第九小学校

※卓球 (九月十日)

- ☆優勝 元木小学校
- ☆準優勝 第三小学校
- ☆第三位 加住小学校

※バレーボール (九月十日)

- ☆優勝 恩方第一小学校
- ☆準優勝 浅川小学校
- ☆第三位 由井第三小学校



【訃報】

第4ブロック長として皆をまとめてくれていた山田小学校筆頭代表の横溝孝昭氏がご逝去されました。とても朗らかで会議ではいつも皆が笑顔で話し合いができる空気をつくってくれていた素敵な方でした。心からご冥福をお祈りいたします。

◆編集後記◆

今回、第4ブロックでは三鷹第四小学校の特色を一面に安全や防犯、4ブロック内の学校の自慢の三つを記事にしてみました。一面を取材するきっかけになったのは、地域と保護者の関わり方が旨くまとまっている学校がある。

という情報を聞いて、見てみたい！という単純な興味からでした。そして現場に赴き、お話を伺ったり施設案内をしていただいて、地域の中にある学校の在り方や、人と人との連携の深さに皆ショックを受けて帰ることになりました。自信をもって学校の説明をされる先生、実際に子どもたちに関わっている保護者の「楽しいです！」との即答や笑顔が忘れられません。パトロール、行事、キャンペーン、子どもへの関わり方はさまざまですが、これからも「子どもたちのため」に皆で協力していきましょう。(二小S)

【訂正】前回発行の広報誌号数の35号は誤植で正しくは36号です。お詫びいたします。

◆小P連だより第37号担当◆
 <4ブロック>
 二小・五小・七小・東浅川小・浅川小・散田小・横山第二小・山田小・長房小・船田小